

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13798

研究課題名（和文）メンバーの多様性がカテゴリーの持続性に与える影響

研究課題名（英文）Impact of member diversity on category persistence

研究代表者

谷口 諒（Taniguchi, Ryo）

明治大学・経営学部・専任講師

研究者番号：90801283

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、専門性で見た、メンバーの多様性が当該カテゴリーの持続性に与える影響を明らかにすることであった。レビューから明らかになった既存研究の問題に対処するため、本研究では、日本のweb小説のデータセットを構築し、コンテストの審査通過を被説明変数とする分析を行った。その結果、（1）単一の専門性を持つ作者、すなわちスペシャリストの作品の方がスクリーニング・プロセスを通過する確率が高いこと、（2）そのスペシャリスト効果はカテゴリーによっては逆に転じること、である。創造的成果の発現がカテゴリーの持続性を左右するとすれば、この結果は、多様性の効果はカテゴリーの特性に依存することを示唆している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本のweb小説コンテストのデータを使い、生産者の専門性とカテゴリーの持続性に影響する創造的成果の関係を検証した。その分析からは、単一の専門性を持つ生産者が創造的成果の産出をするが、その効果はジャンル（カテゴリー）に依存する、という傾向が観察された。既存の経営学研究は、カテゴリーの誕生に注視するあまり、誕生後の成長あるいは持続にはあまり関心を払ってこなかった。その点で、本稿の分析には学術的意義がある。また、どのようなカテゴリーが持続的に成長していくのかという問題は、企業の持続的な競争優位を考える上で重要である。その課題に取り組んでいる本研究には、一定の社会的意義もあるであろう。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to explore the impact of members diversity on category persistence. To overcome the limitations of extant researches, this study built a dataset of the Japanese web novels and examine the relationship between the characteristics of novels and performance in the contest. The results show that (1) writers with a single specialty, i.e., specialist, have a higher probability of passing the screening process, and (2) the specialist effect is reversed for some categories (genres). These tendencies suggest that the effect of diversity depends on category characteristics.

研究分野：組織論

キーワード：カテゴリー メンバーの専門性 スペシャリスト コンテスト

1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、カテゴリに属すメンバーの多様性、特に専門性で見た多様性が当該カテゴリの持続性に与える影響を明らかにすることであった。経営学領域の既存のカテゴリ研究は、新たなカテゴリの生成プロセスに主たる関心を払ってきた。カテゴリは、消費者の市場理解に用いられるため、その誕生は企業の競争環境を一変させる可能性があるためである。他方で、新たなカテゴリが誕生したとしても、すべてのカテゴリがその後成長を遂げたり、持続したりするわけではない。言い換えれば、カテゴリにも栄枯盛衰があり、それに伴って企業の競争環境も変化していくということである。しかし、既存の経営学研究は、カテゴリ誕生後の持続性に関しては十分な注意を払ってこなかった。そこで本研究は、カテゴリ内で成果産出に従事する生産者、特にその専門性に注目し、それが当該カテゴリの持続性にどのような影響を及ぼすのかを主たる研究目的に据えたのであった。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、カテゴリ・メンバーの多様性と当該カテゴリの持続性の関係を検証することにある。具体的には、カテゴリの持続性に寄与する創造的成果の産出に注目し、どのような専門性を持ったカテゴリ・メンバー(生産者)が創造的成果、ひいてはカテゴリの持続性に寄与するか、本研究の主眼が置かれた。

カテゴリの持続性は、メンバー(生産者)の入退出に依存する。すなわち、退出より参入が上回っている限り、カテゴリは持続する。潜在的な生産者の参入は、当該カテゴリの成長ポテンシャル(あるいは成長機会)が高い場合に促される。そして、その成長ポテンシャルは、当該カテゴリ内で創造的成果が持続的に産出されるか否かに左右される。したがって、創造的成果の産出がカテゴリの持続性に影響すると考えられる。そこで本研究は、上述の通り、どのような専門性を持ったカテゴリ・メンバー(生産者)が存在すると創造的成果、ひいてはカテゴリの持続が促されるかを主たる目的に据えた。

3. 研究の方法

本研究では、まずレビュー作業を通じて、既存研究の課題や限界を明らかにした。そのうえで、既存理論を援用しながら、検証する仮説を導出した。仮説検証に使用したデータは、日本のweb小説プラットフォーム『小説家になろう』上の作品ならびに作者データである。特に、分析では、当該プラットフォーム上で開催されているコンテストに注目し、その1次審査ならびに2次審査の通過を被説明変数に据えた定量的分析を行った。コンテストの成果に注目した理由は、コンテストの主たる審査基準が創造性にあるためである。

4. 研究成果

既存研究のレビュー作業を通じて明らかになった主たるポイントのひとつは、メンバーの多様性とカテゴリの持続性に関して対立する理論的予測が導出されるということである。ポジティブな関係が想定される論拠は、創造性研究に求めることができる。創造性研究が示すように、メンバーの多様性は創造的成果とポジティブに関係する。加えて、創造的成果は成長機会を示し、結果として参入を促す。つまり、メンバーが多様なカテゴリは、創造的成果の産出を通じて参入を促すため、持続的に成長すると考えられる。それに対して、多様性が持続性にネガティブな影響をもたらすという予測は、カテゴリの境界に注目することで導出される。生産物は生産者のアイデンティティ、あるいはその土台となる専門性を反映するため、メンバーが多様であると、当該カテゴリ内で産出される成果も多様になる。そうすると、当該カテゴリの境界が曖昧になり、認知的正統性を低下させてしまうため、潜在的な生産者の参入は抑制される。その結果、当該カテゴリは、持続的に参入者を獲得できず、衰退すると考えられる。

上述の対立する予測は、いずれも生産者の専門性が影響している。したがって、カテゴリ内のメンバーの専門性を捉えることが、本研究の目的を達成する上では必要になる。しかし、既存研究のレビュー作業から、専門性をもってメンバーの多様性を捉える既存の方法には限界があることが明らかになった。既存研究の多くは、各生産者の専門性を評価する際に、過去の成果物を用いて、そのバラエティを代理指標とする。例えば、研究者の場合には、過去に発表した論文に注目し、掲載誌の分野のバラエティを以て、当人の専門性を評価することが多い。しかし、論文や特許のように、複数人で成果を産出する場合、成果物の属するジャンル(例:物理)は、成果産出に携わった全員の専門性では必ずしもないことがある。したがって、生産者の専門性を評価する際に、過去の成果物を利用するのであれば、協働が発生しづらい文脈が望ましい。

レビュー作業を通じて明らかになった上記の課題を踏まえて、本研究は、日本のweb小説プラットフォーム『小説家になろう』上の作品ならびに作者データを用いた。多くの小説がそうであ

るように、web 小説も、基本的には作者単独で作品を執筆する。そのため、本研究が注目する web 小説という文脈では、過去の成果物が当人の専門性を直接的に反映していると考えられる。その利点をもとに、各作者の専門性を評価し、特に単一の専門性を有する、すなわち過去に同一ジャンルでしか作品を執筆していない作者(スペシャリスト)の成果に注目した。成果としては、当該プラットフォーム上で開催されているコンテスト「ネット小説大賞」の1次ならびに2次審査通過を指標とした。

サンプルは、欠損値のあるサンプルなどを除いた 10,206 作品(応募作品全体の 78%)である。そのうち、スペシャリストによる作品は、サンプルの約 7.2%にあたる 737 作品であったが、アワード受賞作に占める割合は約 17%(47 作品中 8 作品)にまで上る。この傾向は、平均的に見るとスペシャリストの方が創造性の高い作品を生み出しているということを示唆する。また、審査プロセスを追ってみていくと、まず1次審査に関して、スペシャリストの作品は、そうでない作品に比べて通過確率が有意に高かった。ただし、このスペシャリスト効果をジャンル別にみると、メインジャンルである「恋愛」ではポジティブに有意、もうひとつのメインジャンルである「ファンタジー」ではネガティブに有意であった。この結果は、あくまでも1次審査通過に関するものであるため注意が必要であるものの、カテゴリの特性に応じてメンバーの多様性がその持続性に与える影響は著しく異なるということを示唆している。すなわち、創造的成果の産出という観点からすると、専門性が一般的なメンバーが揃った方が効果的なカテゴリもあれば、反対に多様な専門性を持つメンバーが参入してきた方がよいカテゴリもあるということである。メンバーの多様性がカテゴリの持続性に与える影響は正負両方ありうるという理論的予測は、レビュー作業を通じて確認した点である。その境界条件、とりわけその差を分かつかテゴリの特性を探索することが、今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 谷口諒	4. 巻 17
2. 論文標題 いつ組織は共存を選択するか：曖昧な目標の創出と受容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一橋商学論叢	6. 最初と最後の頁 28-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口諒	4. 巻 4
2. 論文標題 組織に対する社会からの評価とその影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 組織論レビュー : マクロ組織と環境のダイナミクス	6. 最初と最後の頁 117-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口諒・高田直樹・村瀬俊朗	4. 巻 51
2. 論文標題 創造的なアイデアを『選ぶ』：チームを待ち受ける矛盾と困難	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本経営学会誌	6. 最初と最後の頁 32-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口諒	4. 巻 15
2. 論文標題 資源の獲得と活用：正当性の獲得戦略が生み出す期待と誤解と混乱	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一橋商学論叢	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Taniguchi, R.
2. 発表標題 Double-edged swords or double-handed swords? The effects of symbolic and substantial similarity on the screening and selection.
3. 学会等名 2024 Strategic Management Society Paper Development Workshop in Seoul (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Taniguchi, R.
2. 発表標題 Double-edged swords or double-handed swords?
3. 学会等名 Journal of Management Studies Publishing Workshop (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 谷口諒
2. 発表標題 組織に対する社会からの評価とその影響
3. 学会等名 2022年度組織学会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口諒
2. 発表標題 組織に対する社会からの評価とその影響
3. 学会等名 2022年度組織学会年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Taniguchi, R.
2. 発表標題 Combinations of memberships and issues in category dynamics
3. 学会等名 The EGOS and Organization Studies Kyoto Workshop 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷口諒
2. 発表標題 カテゴリとメンバーシップ
3. 学会等名 2019年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関